

# 言語接触のタイプ

神戸大学名誉教授  
西光義弘

# ドラビダ語

- 大学院の1年先輩の藤原明氏が1975年ころから日本語の語源をドラビダ語にもとめる研究発表をするようになる。

# 言語接触到に始めて接触したとき(1)

- 学生時代、大学院時代は言語接触到について特に関心を持ったことがなかった。
- 大学院修士を終え、神戸大学教養部の英語教師として就職をした直後からアメリカに再び留学するためにさまざまな留学制度に申し込んだ。そのなかにハワイ大学イースト・ウェスト・センターの留学制度があった。

## 言語接触に始めて接触したとき(2)

- ハワイのクレオール・プロジェクトの研究者として日本語面を担当する研究者を探していたDerek Bickerton教授がこれを知り、連絡を取ってきた。
- これに参加することにし、1976年1月から1978年1月まで2年間ホノルルに滞在。

# 日系一世の英語

- Mista karsan no tokoro tu eika sel shite
- Shi go movu 1969 ka omou yo.
- Skul no go natin koko de.